

3-2-3 道央都市圏「都市交通マスタープラン」(関連計画)

札幌市を含む7市3町で構成される道央都市圏において、第4回道央都市圏パーソントリップ調査(H18～H21)が実施され、平成22年3月に道央都市圏における「都市交通マスタープラン」が策定されました。このマスタープランでは、国・道・各市町のまちづくりに関する上位計画、全国および道央都市圏の社会情勢などを背景とし、交通実態調査データの現況分析から浮かび上がった現状の問題、課題を整理することで、「暮らし」「活力」「環境」の3つの視点で「道央都市圏の将来像(計画理念)」と「目指すべき交通の姿」を設定しています。

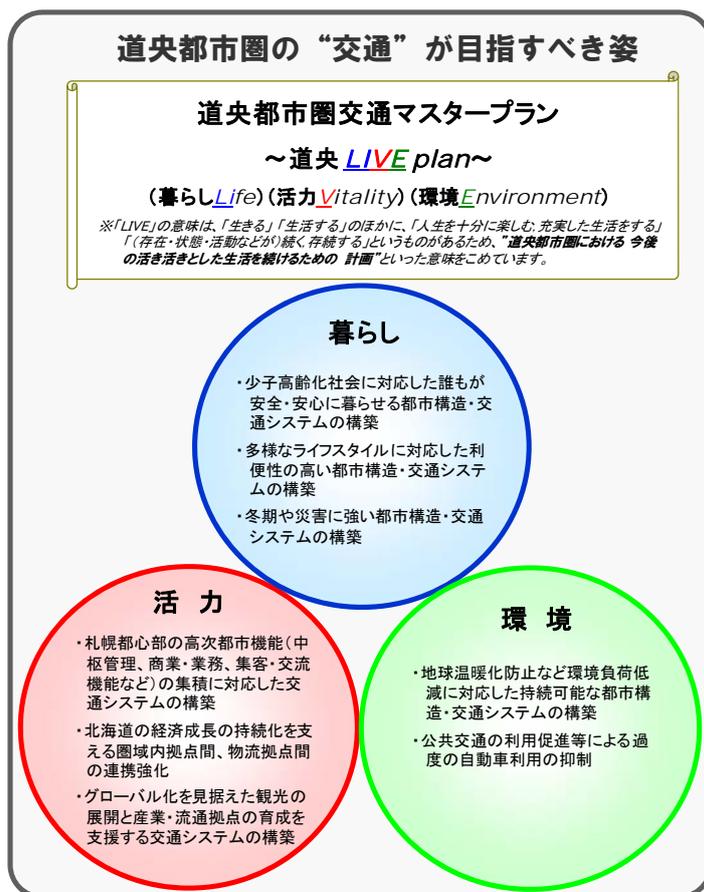


図 3-4 道央都市圏の交通が目指すべき姿

(1) 計画の必要性

①人口増加に伴う経済成長からの転換

- ・人口減少下での持続的な発展
- ・グローバルな視点での競争力向上

②超高齢社会の到来

- ・歩いて暮らせるまちづくり
- ・公共交通の維持

③環境に対する意識の高まり

- ・環境負荷の少ない交通システム
- ・環境に配慮し、自然と共生する生活スタイルの実現

(2) 今後の計画を考える上で必要な点

- ・視点の転換 : “つくる” ⇒ “活かす”、“上手につかう”

(3) 「あるべき将来像」(計画理念)と「交通の基本方針」

暮らし Life

<あるべき将来像>

日常生活を支える拠点(都心、広域交流拠点、地域中心核)において、地域特性に応じた多様な都市機能の集積を図り、北国の文化を引き継ぐとともに、お年寄りから子供まで誰もが、安全、安心に暮らすことができる、利便性の高い都市を目指します。

<交通>

基本方針
(暮らし)

年間を通じて、どんなときも、誰もが安全、安心に暮らせる利便性の高い交通環境を実現する。

活 力 Vitality

<あるべき将来像>

札幌都心には、道内・国内外と交流・連携する多様な機能の高度な集積を図ります。

また、周辺地域の都市生活エリアや産業・流通拠点、田園地域との連携強化も図ることで北海道経済を牽引するとともに、持続的成長を支える都市を目指します。

観光、物流、医療などで大きな魅力や安心を有する拠点と、国内外との交流・連携を支える2空港、3港湾、新幹線駅との連携強化を図ることで、道内、国内、国外の様々な人と人、地域と地域が交流・連携する活力と躍動感あふれる都市を目指します。

<交通>

基本方針
(活 力)

都市拠点、産業拠点の育成と国内外に魅力をもつ拠点間の交流・連携を支えるなど北海道経済を支えるモビリティを確保する。

環 境 Environment

<あるべき将来像>

地球温暖化などの環境負荷を低減させるとともに、周辺市町に存在する日本海に面した長い海岸線、広大な石狩平野と背後の丘陵地における豊かな自然環境と共生しつつ、田園居住や芸術・文化交流といった創造的都市活動など多様なライフスタイルを実現できる都市を目指します。

<交通>

基本方針
(環 境)

環境に優しく、持続可能な都市を支える交通環境を実現する。